

DIGITABLE 第 107 回勉強会レポート

2017年7月15日 於：森下文化センター 第一研修室



平野正志講師

Photoshop 研究講座「RAW グレースケールと RGB 白黒調整」「記念写真集 110」：平野正志講師
希望者による「ライトニングトーク」
動画入門講座②：「撮影技術講座②：小型ストロボによる人物撮影」：高木大輔講師

DIGITABLE 写真技術研究会 (HOME) <http://www.digitable.info>

Digitable 研究講座

「RAW グレースケールと RGB 白黒レイヤー」

：平野正志講師

■カメラ RAW 現像でできるモノクロ化はグレースケールとなる。フォトショップでの白黒レイヤーでの調整項目と各色の違いがある。グレースケールと白黒レイヤーの違いを比べる。

調整項目と各色の違いがあり、オレンジ、アクア（シアンの代わり）、パープルが加わる。

■カメラ撮影でモノクロ（ニコンカメラ）

ピクチャースタイルの設定でモノクロ撮影が可能。

フォトショップではRAW画像はカラーとして表示され、モノクロにならない。ブリッジやウインドウズではモノクロ表示された。

ViewNX 2 ではモノクロで開かれ調整できる。別名保存でTiff 保存してモノクロに残せる。

■レンズ補正：周辺光量の減少

通常行う処理とは言えないが、常套手段としてモノクロではよく行う周辺光量の調整を試してみる。フィルター項目のレンズ補正で周辺光量の調整を行う。

測定ポイントを決めて数値を測定、各種調整と数値変化を比べてみた。

さらに RAW 現像でも「切り抜き後の周辺光量」で同様な周辺光量の調整が可能なので、同様な処理を行い数値測定して比べてみる。

結論はフィルター調整ではピクセルごとの数値変化があるがRAW 調整では変化がなくより滑らかであることがわかる。

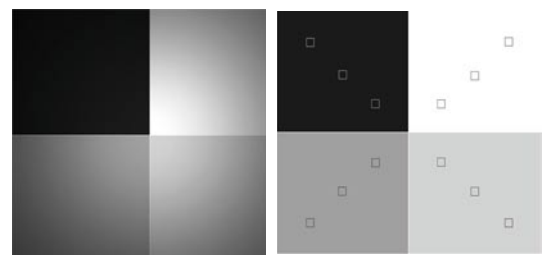
DIGITABLE 写真技術勉強会 不許複製 (C) Digitable.info. 20151021 All Rights Reserved



調整項目の違いが面白い。

カメラ RAW での調整。
調整レイヤー「白黒」
での調整。

カメラで白黒、様々な
白黒化が試せる。



上図のチャートを作り測定地点を決めて数値測定を行う。

参加者全員による“ライトニングトーク”

伊東会員の発表：早春のイズ河津桜フォト紀行
他は記録がなくテキストは割愛します m(__)m

撮影技術講座②：小型ストロボによる人物撮影： 高木大輔講師

■小型ストロボの利用法

デジタル一眼レフ高感度特製の向上により、フィルム時代ほどの大光量が必要なくなり、小型ストロボの利用範囲は広がっている。またデジタルならではの利点で、面倒な測定や計算は必要なく、マニュアル操作でも写り具合のモニタチェックで光量や露出を変えればよく、気軽にトライできるのが魅力だ。一般に使用されている、クリップオンタイプのストロボを利用して、一ランク上のライティングを目指そう…

■ディフューザーとストロボの同調

今月の作例で使用する小型ストロボ用のアクセサリーについて見ておこう。

モデル撮影や商品撮影では（内蔵ストロボと同じく）ストロボの直接照射による「硬い光」は出来るだけ避けたい。内蔵ストロボと違って、一つには前頁で解説した「バウンス光」だが、バウンスでは光量が落ちたり、や柔らかくなりすぎたり、またバウンス先の色カブリの問題もある。

そのような場合に役に立つのが小型ストロボ用のディフューザーやアンブレラだ…

■ライティングの実際_（窓際のソファ：半逆光/全身）

小型ストロボによる背面バウンス

小型ストロボによるバウンス撮影を試みるが、上面バウンスでは配光バランスが悪そうで、また左右、後ろも壁が遠くて使えない。前回解説した 80cm の白丸レフをカメラの背後 1 m に立て、そちらに向かって背面バウンス。

上二つの作例に比べ、非常に柔らかな光で、元々の光の雰囲気を残しつつ、“空気感”が活かされたと思う。

モデルさんの肌の質感、肢体の美しさも表現出来たようだ…

■ライティングの応用_（積極的に作画するライティングへ）

これまではライティングの基本として、それぞれのシーンの中で“自然な”ライティングに TRY してきたが、最後には一歩踏み込んで、作者の感性を活かした積極的なライティングについて見ておこう。

大切なのはこれまで見てきた基礎ライティングで、「どのように変化するか？」をつかんだ上で、写真をどのような上がりを持っていくか？の創造力と、完成を予想する判断力である…

■応用_3. 真夏の屋外の演出

スタジオのシュチュエーションとモデルのコスチュームから「屋外のデッキが表現出来ないか？」考えた。ここではむしろ高い位置からのストロボ 1 灯が効果的。ダイレクトはリアリティに欠けるし、バウンスでは柔らかくなりすぎるし光量も足りない。ディフューザー付のフル発光としたが、ガイド No30 台のストロボ 1 灯でもここまで演出できた。余談であるが、後半の作例に移ってからはモデルさんも意図を組んで乗ったようで、もちろん表情も申し分ない…

DIGITABLE 写真技術勉強会 不許複製 (C) Digitable.info. 20170715 All Rights Reserved



伊東会員の発表：早春のイズ河津桜フォト紀行



サンパック・ディフューザーキット (4,200 円)
L (195 × 148mm) と S (145 × 115mm) がセットになっている もっとも、ほとんどLしか使わないが…

